

モデル志願者員数區分表

大正六年四月二十四日調

区 分	志願者数		合格者数		モデル証交付数	
	旧	新	旧	新	旧	新
男	九	二二	九	一五	四	二二
女	三〇	四五	三〇	二五	一三	二一
小 児 (女)	〇	三	〇	一	〇	一
計	三九	七〇	三九	四一	一七	三四

備考 一、新志願者中合格者ノ割合尠ナキハ体格検査当日欠席者アリシ
為メナリ

二、体格検査未済ノ者旧モデル女一、新モデル男女一名アリ(以
上ハ合格見込ノモノ)

三、体格検査ハ旧モデルニ對シテハ三月一八日ニ、新モデルハ四
月十六日同二十三日ノ両日ニ之ヲ行ヘリ

四、モデル募集ハ四月十一日以後三回新聞ニ廣告ス

④ 臨時写真科第一回展覽會

「東京美術学校近事」(722頁参照)にも記されているように、大正
六年四月十三日から同月十五日まで臨時写真科は第一回作品展覽會
を本校で開催し、同科創設以来の成果と参考品を一般公開して好評
を博した。同年同月十五日付『東京朝日新聞』はこれを次のように
報じている。

●電氣で送つた寫眞もある

◆美術學校の展覽會

東京美術學校に寫眞科(臨時写真科)が創設されてから早くも二年の月日は流れ
て當時の第一期生たる今の三年級及び二年級の全體は

▲其の作品八十五點を掲げて十三日から三日間第一回展覽會を開
き合せて同科の諸設備を公開して居る、第一室は泰西名畫の寫眞
を陳列し第二室には學術的方面に應用された寫眞を列べてある、
其中には山極「勝三郎」博士が研究の人工的癌種の顯微鏡寫眞を
初め金屬破面若くは岩石の顯微鏡寫眞、「」着色寫眞、天體寫
眞、X光線寫眞等があるが

▲最も注目すべきは伯林のロカールアンツアイゲル社より巴里の
リラストラシオン社へ僅々十分間で送電したといふ獨逸帝國議會
副議長の寫眞である 第三室は特種の寫眞に用ふべき多くの機械
例せばクロモスコープ、二色版機、パノラマ寫眞、活動寫眞機
「」顯微鏡寫眞機及び分光器、シャイナア氏感光計などいふ

▲機械をも陳列してあるから専門家は元より一般の人と雖も十分
寫眞といふものゝ知識を受けることが出来る 第四室は新作品展
覽會場で可なり藝術的のものが多く失題(中山岩太)冬の夕暮
(荻原義彦)某氏の肖像(成田隆吉)歌へる子等(同人)等特に
擧げたいと思ふ 此他入口の参考品室にはゴム寫眞の輸入者とし
て女人跣足(くろくとははだし)といふ本野「二郎」外相の作品が七八點とデヌマン
シ、ピューヨーなどいふ有名な外國人の作品を並べ更に製版工場
だのコロナイプ版室、三色版室等悉く公開して見せて居る

〔大正六年職員ニ関スル書類庶務掛〕

『写真月報』第二十二卷第五号にも記事が掲載されているが、それによると臨時写真科では材料商の出品も求め、各専門の方面に交渉して展示品を集め、製版科も協力して準備を進め、初日五十人、二日目六百人、二日目千人以上の観覧者があったという。

⑤ 森田亀之助を助教授に起用

大正六年六月三十日、助手（英語および西洋美術史授業担当）であった森田亀之助は助教授に任命された。森田は明治三十九年本校西洋画科卒業後履（無給助手）となり、同四十二年より大正三年までバーナード・リーチのもとで英文美術・文学書や英会話を学んだ。任命関係文書中に次のような事業歴が記されている。

履歴書（事業ノ部）

森田亀之助

- 一 明治四十二年ヨリ大正四年マテ美術新報ノタメニ英文ノ書籍及雑誌ニ依リテ海外藝術界状勢及畫家列傳ヲ寄稿ス
- 一 大正三年ヨリ同四年マテ主トシテアメリカン・アート・ニュースニ依リ美術週報ノ海外消息欄ヲ擔當執筆ス
- 一 明治四十三年及大正三年ノ二回東京美術學校一覽ヲ英譯ス
- 一 大正四年十一月セレクションス・フォア・アート・スチューデント（美術学生用英文教科書）ヲ編纂ス
- 一 大正四年英文ノ書籍及雑誌ニ依リ歐洲畫界最近状勢ヲ報告スルタメ「藝術家ト藝術運動」ト名ツクル著書ヲナス

第三項目の東京美術學校一覽の英訳とは、Tokyo Bijutsu Gakko The Imperial School of Art, Ueno Park, Tokyo, 1910 及び Tokyo Bijutsu Gakko The Tokyo School of Art, Ueno Park, Tokyo, 1915 である。

⑥ 大正六年度入試問題

大正六年四月十六、十七日の『読売新聞』に(上)(下)に分けて掲載されている。

入學試験問題

▲東京美術學校(上)

（豫科、製版、寫眞、師範各科共通の分）

- ▲日本畫科 寫生、『菜の花』（鉛筆畫、毛筆畫の内隨意）
- ▲西洋畫科 臨寫、石膏製胸像（木炭畫）
- ▲彫刻科 模作、石膏製顔面（塑造）（以上共通以下各科別）
- ▲圖案科第一部 寫生、桃の花及黄水仙（毛筆畫鉛筆畫の内隨意）
- 圖案縦一尺、横一尺三寸の菱形内中央に直径六寸の圓を描きたる各形状内に草花アネモニーを以て適宜模様を作るべし（地色共五色のこと）
- ▲圖案科第二部 寫生、『あをき』（鉛筆畫毛筆畫の内隨意）
- ▲金工、鑄造、漆工科 寫生、『うと』と『くわゐ』（鉛筆畫、毛